

< 抜粋 >

関西広域連合

第 4 期広域計画

【計画期間：令和 2 年度～令和 4 年度】



令和 2 年 3 月

関西広域連合

## 第2 これまでの取組の総括

---

広域連合では、設立時に、「地方分権改革の突破口を開く（分権型社会の実現）」、「関西における広域行政を展開する（関西全体の広域行政を担う責任主体づくり）」、「国と地方の二重行政を解消する（国の地方支分部局の事務の受け皿づくり）」の3つを設立のねらいに掲げ、7つの広域事務（広域防災、広域観光・文化・スポーツ振興、広域産業振興、広域医療、広域環境保全、資格試験・免許等、広域職員研修）を実施するとともに、関西における広域的な課題に係る政策の企画調整にも構成団体と一丸となって取り組んできた。

また、国に対し、国の出先機関の‘丸ごと’移管をはじめとした国の事務・権限の移譲を継続して求めるとともに、平成26年から国において実施されている地方分権改革に関する提案募集制度を活用し、広域行政の責任主体に相応しい事務・権限の国からの移譲について提案を行うなど、地方分権改革の推進に取り組んできたほか、政府機関等の移転や「関西創生」の推進など、国土の双眼構造の実現のための取組にも注力してきた。

第4期広域計画の策定にあたり、これまでの広域事務、政策の企画調整、分権型社会の実現のそれぞれの取組の成果を検証したうえで、設立のねらいの観点から、総括を行う。

### ② 広域観光・文化・スポーツ振興

（観光振興）

広域連携DMOとして設立した「関西観光本部」と連携し、「KANSAI ONE PASS」や「KANSAI Wi-Fi (Official)」等の観光基盤の一層の整備・拡充を図っているほか、戦略的マーケティングや、観光人材の育成、効果的なプロモーション等、官民が一体となった取組を進めることで、関西への誘客促進が図られている。

（文化振興）

関西が有する文化芸術資源をテーマでつなぐ「文化の道」や、美術館や博物館などの文化施設の入館料を無料とする「関西文化の日」などの事業を通じて、関西文化に親しむ機会を拡充するとともに、関西の魅力発信を行うことで、関西文化のブランド力の向上、次世代への継承が図られている。

## 第3 広域連合が目指すべき関西の将来像

---

### 1 基本的な考え方

我が国においては、少子化による人口減少と急速な高齢化の進展により生産年齢人口が減少し、生産性の低下、経済の停滞といった影響が懸念されている。そのうえ、東京一極集中は是正されておらず、若者を中心とした首都圏への人口流出には歯止めがかかっていない。また、経済のグローバル化により各国間の相互依存が進む中、国際的な地域間競争は激しさを増している。

こうした状況下においても、関西が総力を結集し、力強く成長、発展を続けていかなければ

ればならない。そのためには、豊かな自然や資源に恵まれ、大都市から農山漁村までが近接して存在する多様でバランスのとれた地域であり、歴史に裏打ちされた世界的価値のある文化遺産を数多く有するなどの関西が持つ個性や強みを活かすことが不可欠である。また、多くの研究・教育機関が集積するとともに、世界屈指の科学技術基盤を有しており、ライフサイエンス、環境・エネルギーなど多様な分野で世界トップレベルの研究が進められていること、首都圏に次ぐ経済圏域であり、人流・物流の拠点としての役割を果たしていること、文化庁の京都への全面的な移転の決定、総務省統計局の和歌山での統計データ利活用センターの開設、徳島への消費者庁新未来創造戦略本部の設置など、全国で唯一、政府機関の移転が実現していることなどは、関西が国土の双眼構造の一翼を担うのに相応しい圏域である証左である。更に関西では「ワールドマスターズゲームズ2021関西」や「2025年大阪・関西万博」といったビッグイベントが控えているほか、令和元年7月には「百舌鳥・古市古墳群」が関西で6件目となる世界文化遺産一覧に登録されるなど、世界と繋がる絶好の機会が到来している。

このようなことを踏まえ、目指すべき関西の将来像の基本的な考え方として次の3点を定めるとともに、広域連合が関西の“力”を総合化する「結節点」となって、その実現を目指していく。

### (1) 国土の双眼構造を実現し、分権型社会を先導する関西

今日の中央集権体制や東京一極集中は、地方における人口の減少や、活力の低下をもたらすのみならず、ひとたび首都直下型地震のような災害が発生すれば、国家の中核機能は麻痺し、我が国に大きな打撃となる。中央集権体制を打破するとともに、東京一極集中を是正し、自らの政策の優先順位を自らが決定・実行できる個性豊かで活力に満ちた関西をつくるため、引き続き国の出先機関の‘丸ごと’移管をはじめとした国からの事務・権限の移譲を積極的に求めていく。

また、在関西政府機関等との連携を進めるとともに、首都機能のバックアップ構造の実現、首都圏とのインフラ格差是正を進めるための取組などを、経済界とも一体となって強力に推進する。

これらの取組を通じ、地方分権を推進するとともに、国土の双眼構造を実現し、分権型社会を先導する関西を目指していく。

### (2) 個性や強み、歴史や文化を活かして、地域全体が発展する関西

関西全体が発展するためには、人の流出を食い止め、国内外から人が入ってくるようにしなければならない。それぞれの地域で長きにわたって育み、受け継がれてきた多様な歴史や文化を活かし、更に磨きをかけ、関西の多様で豊かな地域性や多文化共生の風土・気質など、住み働く地域としての魅力を国内外に発信することで流入人口を増やすとともに、子どもの頃から地元を愛し大事にする価値観を醸成するような取組により定住人口の増加も図る。更には、こうした取組を通じ、関西に誇りや愛着、自信を持つ人を増やし、国内外を問わずさまざまな形で関西と継続的につながる関係人口の増加にもつなげ、地域全体が発展する関西を創造する。

### (3) アジア・世界とつながる、新たな価値創造拠点・関西

世界各地における戦略的な観光プロモーションの実施、観光分野と連携した関西文化の魅力の世界への発信、産業競争力の強化によるイノベーションの推進、多様な地域資

源の活用と連携によるポテンシャルの向上と相乗効果の発揮、これらを支える基盤の構築など、よりグローバルな視点での取組をハード・ソフト両面において、SDGsの推進、Society5.0への対応も踏まえて、積極的に実施する。また、「はなやか関西」をコアコンセプトとして関西ブランドを世界へ発信する。

各自治体や民間団体が積み重ねてきた国際交流の実績に加え、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」、「2025年大阪・関西万博」など世界的イベントも活かしながら、関西が一丸となってこうした取組を進めることにより、人・モノ・情報を集結させ、融合し、関西から新たな価値を創造することで、アジアのみならず世界での存在感を高めていく。

## 2 将来像

### 3 国内外にわたる観光・文化・スポーツの交流拠点関西

観光資源や歴史文化遺産、スポーツ資源を活かし、更に魅力を高めながら情報発信を行うとともに、関西に移転する新・文化庁とも連携して積極的に関西・日本を元気にする新しい取組を展開し、世界に誇る国際観光・文化・スポーツ圏“関西”を目指す。

(将来像が実現した姿)

- ・世界において文化観光首都・関西としての地位が確立されるとともに、関西各地において、世界からの観光客をもてなす体制が整っている。
- ・関西を訪れる観光客が、関西各地を周遊し、再び訪れたいと思う関西が実現している。
- ・関西に住む人々が、自らの文化や歴史に誇りや愛着を持ち、次代に継いでいくことが定着している。
- ・1年を通して、関西各地の様々な文化や歴史等の体験を求めて、国内外から人が集まり、にぎわっている。
- ・子どもから高齢者まで、あらゆる年代の人が、スポーツに親しみ、楽しむライフスタイルが定着している。
- ・関西各地において、全国規模、国際規模のスポーツイベントが開催されている。

### 3 将来像実現に向けた広域連合の役割

広域連合の設立目的を踏まえ、現在の中央集権体制を打破し、東京一極集中の是正と国土の双眼構造の実現に取り組むとともに、広域課題への対応の更なる深化を図り、政策の優先順位を自ら決定・実行できる個性豊かで活力に満ちた自主・自立の関西を創り上げていくことを目指す。

このためには、広域連合、国や構成団体、圏域内の市町村、経済界やNPO、住民といったあらゆる主体の総力の結集が必要であることから、広域連合は関係者に対し、将来像を提示・共有したうえで、関西の“力”を総合化する結節点となるよう、府県域を越えた広域連合であるという特性を活かし、関西における広域行政の責任主体としてリーダーシップを発揮していく。

## 第4 第4期広域計画（R2～4）の取組方針

### ② 広域観光・文化・スポーツ振興

#### （観光振興）

関西には、1,000年を超える歴史・文化から、四季折々の素晴らしい多様な自然、更に先端産業の集積まであり、あらゆる観光資源の宝庫となっている。いわば日本の魅力が凝縮された関西のこれらの強みを活かして、官民が一体となり、訪日外国人旅行者の更なる誘客を目指し、持てる力を結集して文化と観光を振興する。

このため、官民一体で設立した広域連携DMO「一般財団法人関西観光本部」を中心に、「KANSAI」ブランドを海外に向けて戦略的に発信するとともに、特に第4期広域計画の期間においては、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」などのゴールデン・スポーツイヤーズや「2025年大阪・関西万博」を踏まえた施策を展開するため、以下の重点方針に基づき取り組む。

#### 〈重点方針〉

##### ア 多様な広域観光の展開による関西への誘客

都市と地方をつなぎ、外国人観光客が関西各地を訪れるよう、関西の多彩な魅力をつなぐ広域観光周遊ルート「美の伝説」を、ターゲット国の嗜好に合わせて売り込むとともに、位置情報システム等の先端技術も活用した、食文化体験、エコツーリズム、ジオツーリズム、医療観光、産業観光等、関西の強みを活かした広域観光周遊ルートの造成や、ゴールデン・スポーツイヤーズと連動したスポーツツーリズムの取組等、多様な広域観光の展開により、関西への誘客を図る。

##### イ 戦略的なプロモーションの展開

東アジア、東南アジア、欧米豪等における海外観光プロモーションや、関西の認知度向上に向けたデスティネーション・キャンペーンの展開、旅行会社と連携した海外旅行博や商談会でのセールス、ファムトリップの実施等、訪日旅行者の増加・拡大を図るための戦略的なプロモーションを展開する。

##### ウ 外国人観光客の受入を拡大し、周遊力・滞在力を高める観光基盤の整備

外国人観光客の受入を拡大するため、関西の空の玄関口である関西国際空港への高速交通アクセスの向上、地方空港への国際線の誘致、ハラル認証への対応や祈祷室の設置等のムスリム旅行者対応の拡充等を推進する。また、ICT（AR等）を活用した多言語による情報発信、IC系交通パスの利用エリアや無料Wi-Fiのアクセスポイントの拡大によるシームレスな移動環境の整備等、周遊力、滞在力を高めるための基盤整備に取り組む。

##### エ 関西の強みを活かした文化・スポーツ観光の展開

2019年からのゴールデン・スポーツイヤーズや「2025年大阪・関西万博」を踏まえ、世界文化遺産や日本遺産、無形文化遺産、ジオパーク、食文化や伝統産業、マンガ・アニメやアート、祭り等、関西の文化を活かした観光情報や、サイクリング、

ウインタースポーツ等の各地で体験できるスポーツ情報の発信に努める。

#### オ 官民が一体となった広域連携DMOの取組の推進

官民一体の取組を進める中心組織である広域連携DMO「一般財団法人関西観光本部」の体制を更に強化し、行政や経済界、関西各地のDMO等と連携を図りながら広域観光を推進する。

##### **【構成団体が行う事務】**

関西への誘客促進に向けて、その地域ならではのオンリーワンのサービスの充実や教育旅行の誘致を推進する。

構成団体が行う海外観光プロモーションにおいて関西をPRする。

広域観光周遊ルート「美の伝説」をはじめとする各地の観光資源を磨き上げる。

多言語対応や無料Wi-Fiアクセスポイントの拡大など外国人観光客の受入環境の整備を進める。

## (文化振興)

関西には、日本を代表する世界文化遺産や1,000年を超える歴史に裏打ちされた伝統芸能・祭礼から現代芸術に至るまで、国内外の多くの人々を魅了する文化資源が数多く存在する。

「東京2020オリンピック・パラリンピック」や「ワールドマスターズゲームズ2021関西」、更には「2025年大阪・関西万博」等の開催は、関西文化の魅力、素晴らしさに触れ、歴史や自然等の多様な地域資源や日本文化の深い精神性を理解、体験してもらう絶好の機会であり、広域観光資源として関西への誘客を進めるためには、個別の文化資源の輝きを守るとともに、関西全体でその活用を図ることが重要である。第4期広域計画の期間においては、これら国際的な注目を集める世界的イベントや関西への文化庁の全面的な移転を契機に、世界を視野に「アジアの文化観光首都」としての発展を目指すため、観光をはじめとする関連分野の施策との連携を図りながら、以下の重点方針に基づき取り組む。

### 〈重点方針〉

#### ア 関西文化の振興と国内外への魅力発信

関西文化の潜在能力の大きさを活かし、関西を更に強く発展させるため、豊かな文化資源のプロデュースによる一体的・効果的な魅力発信を観光分野と連携して行い、これらの取組の積み重ねによるレガシーの創出に取り組む。

#### イ 連携交流による関西文化の一層の向上

関西にしかない文化芸術の価値を高め、人々を魅了し続ける様々な文化プログラムを展開するために、構成団体間や官民の連携交流を通じた世界文化遺産などの関西が有する文化資源の効果的な発信等、観光や産業振興等の他分野への波及も視野に入れた関西文化のブランド力向上に取り組む。

#### ウ 関西文化の次世代継承

関西文化の価値を再認識し、文化力を底上げするため、構成団体における固有の施策も踏まえ、未来を担う若者や子どもたちへの関西文化の継承や発展・創造等に取り組む。

#### エ 情報発信・連携交流支援・人づくりを支えるプラットフォームの活用

関西文化の広域的な誘客効果を地域振興に波及させるため、行政や様々な分野の専門家、関係機関等の協働により、関西文化の振興策を検討・提案するプラットフォームである「はなやか関西・文化戦略会議」を活用する。

#### オ 新たな関西文化の振興

「東京2020オリンピック・パラリンピック」や「ワールドマスターズゲームズ2021関西」、「2025年大阪・関西万博」等の国際イベントの開催を契機に、関西が持つ優れた文化資源や地域資源を活用し、関西に全面的に移転する文化庁をはじめ国とも連携して新たな関西文化の振興を図る。

### 【構成団体が行う事務】

「関西観光・文化振興計画」を踏まえ、関西全体で共通するテーマにより文化資源の魅力を発信するなど、広域的な視点から関西文化の振興に一体となって取り組む。また、各地域の個性あふれる歴史・文化資源の保存・継承等については、地域の個別実情も踏まえ、構成団体を中心に引き続き施策を進める。

## [資料編]

### 各広域事務及び企画調整事務等におけるこれまでの取組と課題

(広域観光・文化・スポーツ振興)

(観光振興)

多様な広域観光の展開による関西への誘客及び「東京2020オリンピック・パラリンピック」等を見据えた文化・スポーツ観光の展開

- 広域観光周遊ルート「美の伝説」をターゲット国の嗜好に合わせて売り込むとともに、食文化・エコツーリズム・ジオツーリズム・産業観光等、関西の強みを活かし、サブルートの造成などによる広域観光周遊ルートの充実や、国際的なスポーツ大会の開催に向けて関西各地で体験できるスポーツアクティビティの掘り起こしによるスポーツツーリズムの推進、都市と地方をつなぎ外国人観光客の均整を図る多様な広域観光、ジオパークのPR 活動の展開により、関西への誘客を図った。

#### 戦略的なプロモーションの展開

- 関西観光本部で東アジア・東南アジア・欧米豪等における海外観光プロモーションや、ファムトリップ、プレスツアー等を実施し、関西の認知度向上及び訪日旅行者の増加・拡大を図るための戦略的なプロモーションを展開している。また、平成29年度に関西観光WEBを関西観光本部のWEBへ統合し、効率化と情報の一元化を図った。

#### 外国人観光客等の受入を拡大し、周遊力・滞在力を高める観光基盤の整備

- 全国通訳案内士だけでなく地域通訳案内士や無資格者のガイドへも対象を広げて研修会や交流会を実施し、通訳案内士の質の向上と活用の機会の確保に取り組んだ。また、外国人観光客の受入を拡大するため、「KANSAI ONE PASS」のエリアの拡大や関西の空の玄関口である関西国際空港への高速交通アクセスの向上等を推進のための政府への働きかけ、無料Wi-Fiのアクセスポイントの拡大等、周遊力、滞在力を高めるための基盤整備を進めた。

#### 官民が一体となった広域連携DMOの取組の推進

- 広域連携DMOとして「関西観光本部」を設立し、「KANSAI ONE PASS」や「KANSAI Wi-Fi (Official)」等の観光基盤の一層の整備・拡充を図っているほか、広域観光マーケティング戦略の策定や、観光人材の育成、効果的なプロモーション等、官民が一体となった取組を「関西観光本部」とともに進めた。

#### 今後に向けての主な課題



- 関西への外国人観光客数は、第1期広域計画策定時の約6倍に増加した。また、劇的に増加したインバウンドに対応するため、一般財団法人関西観光本部を設立し、関西地域全体への周遊を進めているが、各構成団体の訪問率の格差はまだまだ大きいことから、今後も同本部を中心に「ゴールデン・スポーツイヤーズ」や「2025年大阪・関西万博」などの国際的なビッグイベントを関西全体のインバウンド拡大と周遊観光の促進につなげていくため、具体的な施策を速やかに検討し、実施する必要がある。

#### 上記取組に関するデータ

| 項目            | H23年  | H28年    | H30年    |                   |
|---------------|-------|---------|---------|-------------------|
| 関西への訪日外国人旅行者数 | 210万人 | 1,024万人 | 1,241万人 | 推計値<br>(観光庁、JNTO) |

| 項目  | H29年     | H30年     |          |
|---|----------|----------|----------|
| 海外観光プロモーションの推進<br>(関西創生戦略KPI目標：年1,000人以上) | 1,200人以上 | 1,200人以上 | 関西観光本部調べ |

| 「KANSAI Wi-Fi (Official)」 | H28年度               | H30年度                |          |
|---------------------------|---------------------|----------------------|----------|
| アクセスポイント数                 | 25,000箇所            | 30,000箇所             | 関西観光本部調べ |
| アプリダウンロード数<br>(うち外国人の数)   | 24,600件<br>(4,300件) | 79,818件<br>(34,669件) | 関西観光本部調べ |

| 項目               | H21年度   | H30年度   | 参照元               |
|------------------|---------|---------|-------------------|
| 全国通訳案内士 (全国)     | 13,500人 | 24,000人 | 観光庁調べ             |
| 全国通訳案内士 (広域連合域内) | 3,094人  | 4,978人  | 広域観光・文化・スポーツ振興局調べ |

## (文化振興)

### 関西文化の振興と国内外への魅力発信及び連携交流による関西文化の一層の向上

- 「関西観光・文化振興計画」に基づき、人形浄瑠璃や祭りなどの関西が有する文化芸術資源をテーマでつなぐ「文化の道」事業などを展開するとともに、文化資源に気軽に接する機会として、関西2府8県の美術館や博物館などの文化施設の協力を得て入館料を無料とする「関西文化の日」を関西元気文化圏推進協議会、関西観光本部と連携し、実施した。
- 関西の祭り情報や文化イベントの情報をデータベース化し、WEB上で国内外に向けて発信するとともに、先進的な取組等の共有化・汎用化を通して関西の文化力向上につなげる関西ハーモナイズアップ事業として、アーティスト・イン・レジデンスをテーマとした国際シンポジウムを開催した。
- 文化庁地域文化創生本部や歴史街道推進協議会など官民の連携により、世界文化遺産や日本遺産等をテーマに歴史文化遺産フォーラムを開催するとともに、関西の世界文化遺産等を紹介するパネルや多言語化した歴史文化遺産リーフレット等により情報発信を図った。

### 関西文化の次世代継承

- 「東京2020オリンピック・パラリンピック」や「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」等の開催に向けて、若手人材が企画を立案し、発表・運営する機会を設けるシンポジウムを開催し、関西文化の魅力を発信した。
- 若手文化人材の制作発表の機会をはなやか関西「文化の道」フォーラムにおいて提供するとともに、若手文化人材の企画提案に基づき制作した関西の食文化PR映像を'17食博覧会・大阪等において活用した。

### 情報発信・連携交流支援・人づくりを支えるプラットフォームの活用

- 関西文化の広域的な誘客効果を地域振興に波及させるため、行政間の連携交流を図るための場づくりや、様々な分野の専門家等から幅広い知見を求め、意見交換するためのプラットフォーム「はなやか関西・文化戦略会議」を立ち上げ、行政や様々な分野の専門家、関係機関等の協働により、関西文化の振興策に関する検討を行った。

### 東京オリンピック・パラリンピック等や文化庁の全面的移転を見据えた新たな関西文化の振興

- 「東京2020オリンピック・パラリンピック」等の国際スポーツイベントの開催を契機に、関西が持つ優れた文化資源や地域資源を活用し、その魅力を全国にアピールするため、関西ならではの文化・芸能の実演を交えたはなやか関西「文化の道」フォーラムを開催した。

### 今後に向けての主な課題

- 関西の文化のブランド力を向上させたり、文化資源を活かすため、各地の先進的な文化施策のノウハウを共有し広域的に波及させることや、世界文化遺産や日本遺産など関西の豊富な文化遺産を結びつける歴史的・文化的ストーリーの発掘など、地域資源の掘り起こしとプロモーションについて、観光などの関連分野と連携した取組の展

開を進める必要がある。

- 関西の文化振興や発信力を向上させるため、「はなやか関西・文化戦略会議」を活用した新たな振興策の検討や、世界的なスポーツイベント等が日本で開催されることから、国際的な注目を活かした関西文化振興策の検討が必要である。

## 上記取組に関するデータ

### 【関西文化の日実施状況】

| 項目    | H23年度 | H30年度 |
|-------|-------|-------|
| 入館者数  | 34万人  | 52万人  |
| 参加施設数 | 454施設 | 655施設 |

### 【関西ハーモナイズアップ事業（アーティスト・イン・レジデンス）】

| 年度  | 開催地      | 参加者数 |
|-----|----------|------|
| H29 | 徳島県（神山町） | 140人 |
| H28 | 滋賀県（甲賀市） | 200人 |
| H27 | 鳥取県（米子市） | 200人 |

### 【歴史文化遺産フォーラム】

| 年度  | テーマ                             | 開催地      | 参加者数 | 主催            |
|-----|---------------------------------|----------|------|---------------|
| H30 | 関西の私たちは歴史の節目に何をすべきか             | 神戸市      | 300人 | 広域連合、歴史街道、文化庁 |
| H29 | 歴史に学ぶ広域観光ルート                    | 八幡市（京都府） | 240人 | 広域連合、歴史街道、文化庁 |
| H28 | 関西から日本遺産を世界へ                    | 奈良市      | 240人 | 広域連合、歴史街道、奈良県 |
| H27 | 古墳で読み解く日本の古代                    | 大阪市      | 410人 | 広域連合、歴史街道     |
| H26 | 関西から見る日本の歴史と文化<br>～世界遺産で知る日本の姿～ | 大阪市      | 400人 | 広域連合、歴史街道     |

（歴史街道：歴史街道推進協議会、文化庁：文化庁地域文化創生本部）

※いずれも広域観光・文化・スポーツ振興局調べ

